

新たな干潟・浅場造成材の準備



干潟・浅場の減少、そして再生へ……

かつて三河湾には多くの干潟・浅場がありました。干潟・浅場にはアサリやハマグリなどの多くの魚介類や渡り鳥が溢れ、円滑な陸と海との連続した生態系がありました。しかし、私達の生活を豊かにするために沿岸の海は埋め立てられ、干潟や浅場は港などに姿を変えていきました。干潟・浅場が消えると同時期に海の汚れが目立つようになり、魚介類がとれなくなってきました。私達は平成10年から16年まで行った中山水道航路を掘削した時に発生した砂を用いて干潟・浅場の再生をしましたが、それに引き続き、“豊饒^{ほうじょう}”^{※1}な海三河湾”の再生を目指して、準備を進めています。

※1 ここでいう豊饒とは、様々な生物がいきづく豊かな海をイメージしています。



ハゼの仲間



アサリ



造成干潟で潮干狩り



矢作古川河口干潟



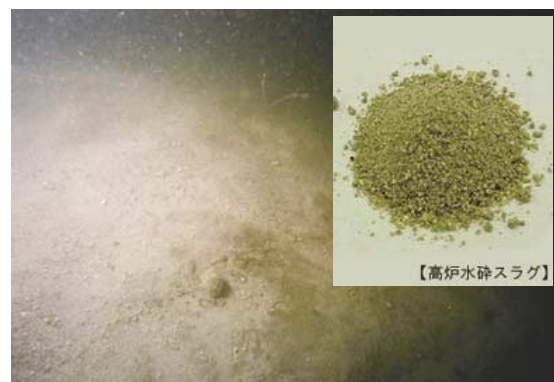
新たな干潟・浅場造成材の候補

干潟・浅場を作るためには、材料が必要です。平成10年から16年まで行った干潟・浅場造成事業では三河湾の湾口にある中山水道航路の整備によって発生した浚渫砂を有効に使って干潟・浅場を作ることができましたが、浚渫事業の終了に伴い浚渫砂が供給されなくなるため、浚渫砂に代わる新たな造成材が必要となりました。新たな造成材として、ダム堆積砂、鉄鋼スラグ^{※2}等を試験材料として、造成材としての有効性について検証をしています。

※2 鉄鋼スラグ（高炉水砕スラグ）…鉄鋼を製造する過程において発生する副産物



ダム堆積砂



鉄鋼スラグ
(高炉水砕スラグ)



新たな造成材の適性試験

ダム堆積砂、鉄鋼スラグ、中山水道航路浚渫砂、実験場所の砂を比較した試験結果においては、いずれの材料においても底質環境は良好と判断されました。しかし、鉄鋼スラグにおいては、粒子の部分的固結が解消されないため、改良が必要になります。



実験海域



実験中のアサリ

テスト項目	ダム堆積砂	鉄鋼スラグ	中山水道航路掘削砂	実験場所の砂
周辺の海水への影響	○	○	○	△
砂の柔らかさの維持	○	△	○	○
多様な生物の生息	○	○	○	○
アサリの稚貝（子ども）の生息	○	○	○	○
アサリの稚貝（子ども）の成長	○	○	○	○
アサリ体内の有害物の蓄積	○	○	○	○
カレイの稚魚（子ども）の生息	○	○	○	○

凡例) ○…問題なし、△…課題がある



アサリの稚貝(子ども)



カレイの稚魚(子ども)



底生生物の採集



稚魚の採集



アサリを入れたカゴの設置状況

国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL (0532) 32-3251
FAX (0532) 32-5049
<http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/>

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL (0569) 21-2311
FAX (0569) 21-2312

アサリの
ファミリーサリちゃん



わんぱふる三河



この冊子の印刷は河津豆印工房
大豆インクを使用しています。

古紙配合率100%再生紙を使用しています